

# 庁議の概要

開催日 平成21年1月5日(月)

## 項 目

- 1 知事からの年頭のあいさつ
- 2 各部局等の動向について【各部局等】

## 内 容

### 1 知事からの念頭のあいさつ

#### 【知事】

- ・ 今年、大きく分けて二つの時期に分けられる。昨年は足固めの年ということで、いろいろな仕込み、仕掛けをしたという年であった。今度は、これを予算というかたちで具体化をさせていかなければならない。この1月から2月にかけて、従来にない非常に難しい予算編成が待っている。私も皆さんと議論をさせてもらい、この厳しい世相にある県民の方に納得してもらえる予算編成をしていきたい。
- ・ もう一つは組織の改正。よく、フルスピードで走っていると車はきしむという。これはコンピュータでも同じで、CPUだけ高度化しても、その他のメモリを含め、いろいろなものも替えなければ、全体としての機能を発揮することはできない。新しい時代の県政の浮揚に向けて、具体的な取り組みに邁進をしていく。そのような県政にふさわしい組織体制を作り上げていきたい。
- ・ しかし、器だけを作っても機能しなければ意味がないので、各部局長とも、よりよい組織体制、新しい時代にふさわしい組織体制はどうあるべきなのか、よく議論をさせてもらいたい。特に、この議論において各部局長は、各部の代表ではなくて、高知県庁の代表という意識を持って大所高所からの議論をお願いしたい。
- ・ そして、4月からは、いよいよ具体的な実行の年度となる。高知県が県民にとって誇りとなるような県になれるかどうか、併せて、全国の方から見て、高知県が愛される県となりうるかどうか、高知県の好感度がアップすることができるかどうか、非常に大切なことだと思っている。
- ・ 産業振興の側面だけから見ても、前者が成し遂げられれば地産地消は進むし、後者が成し遂げられれば地産外商も進んでいくと考えている。
- ・ 産業についても先々に希望の持てる展開が必要であるし、日々の暮らしの基礎の基礎となる、インフラの整備も着実に行われていかなければならない。教育の問題についても、教育がしっかりしていない所に、高知が好きだから移住しようという気持ちになるだろうか。防犯・防災は基本の基本である。南海地震に確実にさらされる県であるからこそ、その体制は盤石であるという、そういう県土づくりが必要と思う。そして、社会福祉のあり方についても、中山間地域、限界集落を多く抱える県であるからこそ、きめの細かな、地域独自の社会福祉体制がしっかりと築き上げられていく。そういう県であることが必要であると思う。
- ・ このような県であってこそ、県民が高知県に誇りを持ち、全国の方が高知県を愛してくれるのではないと思う。こういう観点から、五つの基本政策を着実に推し進めていきたい。
- ・ そのため、第一に、施策を展開するにあたっては、本当に実効性があるかどうかを徹底して自問自答してもらいたい。決して、行政の言い訳に終始するような施策ではなくて、総花的でなくても重点化することによって、結果としてその施策が実効性を上げる、結果として何かが変わると、そういうことを目指していかなるを得ないのではないと思う。

- ・ 第二に、施策が実行の段階に入ってくると柔軟な対応が求められたり、原則が当てはまらずに不満が出てくるようなこともあるのではないのかと思う。民間の方と真に協働できるかどうかということが、施策を本当に実効性あるものにするかどうかの基本の基本であるということに立ち返ってみた時に、是非とも、外部、民間の方の声を柔軟に受け止めてもらいたい。
- ・ 第三に、実行段階になればなるほど、現実、利害との調整が非常に大きな課題となってくる。県民から見える県庁づくりを行っていかねばならない。すなわち、いろいろな現実の問題に萎縮することなく立ち向かっていながらも、公平性、公正性がしっかりと担保できる。そのような県庁でなければならぬ。今後、県政改革についても、アクションプランづくりを行っていく。中でも、組織的な対応を取っていきたいと考えているが、各部署長のしっかりとした指導をお願いしたい。
- ・ 引き続き、高知県は強力な外交力を持たなければならない。日本の中の高知県であり、日本の中での位置付けは残念ながら、今の段階では、そんなに高いプレゼンスを持っている県ではない。人口も79万人、東京都世田谷区よりも小さい県である。国の施策展開において、高知県の声を我々が強く主張していかなければ通らないという状況である。昨年一年、徹底して我々の声を霞ヶ関にも、永田町にも届けてきた。
- ・ 今年は、国内の政治情勢、経済情勢、非常に激動の年を迎えることが予測をされているだけに、本県のような中山間地域をたくさん抱える県の意見が無視されることのないように、より一層、強い外交力を発揮していくという姿勢が必要である。全国の中の高知県という意識を持って、県外に目を向ける高知県庁、特に幹部職員には、この点を引き続き徹底をしてもらいたい。
- ・ 昨年一年で意を強くしたが、我々が、厳しい条件にある高知県のために働いていくこと、そして県政浮揚をいつか成し遂げていくことができれば、日本の生き残りのための一つの方策を試す道ともなるのではないか。
- ・ 日本は大きな歴史的な曲がり角に立っている。今まで発展をしてきた地域が、縮小を迎える時期となってきた。こういう中で、地域、地域の個性を失うことなく、地域の活力、地域の中の地域、田舎の中の田舎の活力をいかに維持することができるのかというモデルを我々、高知県庁から全国に示すことができれば、これは日本全体の裾野の大きな土台、これを維持していくことにつながっていく大きな方策になると思う。
- ・ 国が地域再生政策をとってうまくいかなかったのは、地に足が着いてなかったからだと思う。我々こそが、地に足の着いた形のモデルを示すことによって、日本の歴史に貢献することもできると思っている。
- ・ 最後に、本当にこの一年間は厳しい一年になると思うが、昨年以來、特に夏以降、本当に高知県庁は素晴らしい瞬発力を見せている。おざなりの議論ではなくて、本音の議論を積み重ねさせてもらい、一つ一つ上がってくる成果、その喜びを共に分かち合う一年間にしたい。成果を信じて、皆さんと力を合わせて頑張らせてもらいたい。

## 2 各部署等の動向について【各部署等】

政策企画部が取りまとめた各部署の今週の動きに関する資料を配布のうえ、各部署等より概要説明があり、意見交換を行った。

### 【概要説明】

- ・ 今週中に全所属あてに、県民一斉美化活動月間の取り組みについての詳細をお知らせのうえ協力要請をさせてもらう。また、県として、県の主催する美化事業を2月8日に実施する方向で検討しており、県下の主要出先機関を地域での当日の拠点とさせてもらいたいので、この点については、別途、関係部署へ当部から協議をさせてもらう（文化環境部）。